

発刊のことば

幹事代表 佐々木 豊

宮城県の植物研究を目的とする雑誌「宮城の植物」を宮城植物の会の会誌として発刊することになりました。

本県の植物研究は早くから多くの人々によって行なわれ、すぐれた研究も生まれました。しかし、これらの研究の多くは、一般にはあまり知られず、調査が特殊な地域に集中した感じで、全県的なひろがりをもったものとしては、必ずしもならなかったに思われます。本県の自然が比較的複雑で、調査の能率が悪いことなどがあるにしても、やはり同好者の全県的な組織がなかったこともひとつの原因にあげられるでしょう。

自然や環境について、本県でも問題にされるようになってきた数年前、県全体の組織づくりをめざして活動を始めた植物好きの有志と、全県の組織の必要を感じていた研究者の有志とが連絡をとりながら、数回の観察、採集会をともに経験するなかで会結成の機運を高め、1972年12月17日、正式に「宮城植物の会」を発足させました。

そのねらいは、同好会として、植物好きの人々の親睦をはかり、宮城県の植物研究をひろめ、すすめて行くことです。

一地方の生活、文化は、その地方の自然に深く根ざし、また自然をもっともよく表現しているものは植物

であると言われます。そういう意味から、植物研究は生活文化の研究にもつながると思います。

本誌は植物の調査研究の報告、観察採集の記録だけでなく、植物に関することは、あそび、伝説、随想など、植物がわたしたちの生活や文化にどんな意味をもっているのかを考えさせる資料となるものも、広くとり上げていきたいと思います。

会員が、それぞれの興味や関心に従い植物にはたらきかけて得た記録を気楽に送ってください。それをだいにして宮城県の植物研究をすすめて行きたいと思います。

表紙の題字は東北大学学長加藤陸奥雄先生に揮毫して頂き、創刊号の巻頭は同大学理学部教授吉岡邦二先生の「宮城植物の会の発足に寄せて」で飾って頂きました。本誌の誕生にとってこれ以上のお祝いはないと思います。

各方面より寄せられた御好意、御協力に対し厚く御礼申し上げます。

わたしたちの共通の広場「宮城の植物」の誕生をみなさんといっしょに喜びたいと思います。これからの発展のため、いっそうの御協力をお願いして発刊のことばといたします。